

## 2020年3月7日ベルリンかざぐるまデモ Greenpeace Energy 広報、Christoph Rasch (クリストフ・ラッシュ)さんによる演説和訳

お集りの皆さん

皆さんが今日ここに集まったことをとてもうれしく思います。フクシマの事故が私たちに託した、世界に訴えていかなければならないメッセージをベルリンからも伝えるために、です。

そしてそのメッセージとは、「原子力はもう要らない！ 原子力エネルギーのリスクは決して制御できない！」というものです。そしてそのことは今こそ声を大きくして言う必要があります。原子力ロビーが今、環境保護の議論でカムバックを企てようとしているからです。

そのことに反論するには、強力な原子力関係の企業が未だに大きな力を持ち、エネルギー市場を牛耳っている日本に目を向けるまでもありません。日本では古くからの独占企業が市場を占めていて、再生可能エネルギー供給者が電力市場に参加するチャンスがほとんどありません。

でもその日本に目を向けずとも、ヨーロッパを見ただけでも事実は明らかです。欧州委員会は今週、仰々しく大宣伝をしながら実は歯ごたえのない「環境保護法」の提案内容を発表しました。

問題は以下の点にあります：EU では将来も原子力が「グリーン・ディール」として捉えられるということです。「クリーンなエネルギー」だということです。フランスなどの原子力国家は、ありったけの力を総動員して EURATOM や原子力産業を維持促進するために、必要な膨大な金額を要求する権利を失うまいとして躍起となるでしょう。そしてそれを支持しているのが東ヨーロッパの国々です。ハンガリーではすでに新しい原子炉を建設中で、チェコはすでに稼働している古い原発をさらに長く稼働させようと企んでおり、ポーランドは原発を始めようと計画しています。

ですから、私たちはヨーロッパでも油断するわけにはいかないのです。ドイツはこの夏から EU 議長国を務めることになっているので、ことに私たちには、ドイツ連邦政府が連立協定書で約束したことを思い出させる義務があります。連立政権の協定書には、EURATOM 欧州原子力共同体の条約を改革したい、と書かれているのです。これは、まがりなりにもドイツでの「脱原発」を真剣に考えている政府なら、とっくの昔に手掛けていなければならなかったことのはずです。

でも、そろそろ皆が自問し始めています。この大連立政権はどれだけの信念をもって働いているのだろうか、と。ドイツキリスト教民主同盟 (CDU) からもすでに、原発の運転期間の延長を認めてもいいのではないかとというような声まで出始めています。核変換 (Transmutation) を将来を担うテクノロジーだと称賛するような記事もよく見かけるようになりました。

ですから、私たちは油断することはできません。私たちのしっかりした議論で反論していかなければなりません。あるリスクを、別のリスクと交換するわけにはいかないということを説明していかなければなりません。原子力は決して環境危機の解決にはならないということを。

- ベルギーやチェコにある古い原発は私たちの安全を脅かすものだからです！
- 放射性廃棄物の安全で確実な最終処分場はないからです！ そして研究所などのラボだけで機能した新しい方法を大規模に利用したところで、放射性廃棄物問題は解決はされないのだということ！
- そして新しい原子炉建設には信じられないほどの莫大なお金がかかるということ。例えばフランス、フィンランド、イギリスなどを例にとっても、たった一つの原発を建設するのに何千億ユーロという巨額が必要です。それだけのお金があれば、もっとたくさんの、十分な数の風力発電設備、太陽光発電設備と蓄電設備が賄え、少しも放射性廃棄物は排出されません。それに国境を越えて恐怖を与える重大事故のリスクもありません。

私たちはここからブリュッセルとベルリンの政治に向けて声を挙げたいと思います。原子力ロビーに丸め込まれるな！ このような古い、非経済的で危険なテクノロジーに色目を使うな！ 脱原発の決定を変えようなどと思うな！ そう伝えていかなければなりません。

それよりは、今こそ真実環境に優しい本物のエネルギー政策変換を実現せよ、風力太陽光発電と蓄電設備を装備するための枠付けとなる条件を用意せよ。それができれば、同時に脱石炭火力発電も実現でき、原子力ともついに別れできるでしょう。ありがとうございました！